

オオキンケイギク対策部会



はじめに

オオキンケイギクとは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは30～70cm、毎年5月～7月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。明治時代に観賞用として輸入され、戦後は緑化工事に多く使用されました。ところが繁殖力が強すぎて在来種のカワラナデシコなどを駆逐してしまう侵略性が問題となり、2005年に特定外来生物に指定され、輸入栽培などが禁止されました。それでも一度定着してしまったオオキンケイギクは今も市内各地で増え続けています。

なごや生物多様性保全協議会では2013年に市民200名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、定期的にオオキンケイギクを駆除し、名古屋市内からオオキンケイギクを減らしていくために2014年に「オオキンケイギク対策部会」を設立したのです。部会員は9名です。

これまでの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」が2014年初めに行った活動は駆除実験です。矢田川のふれあい橋付近で①抜き取り ②刈取り ③花切りの3つの駆除方法を毎週続けて9週間試行し、再生状況を検証しました。この実験の意図は、一般的に役所が工事発注する草刈り機によるオオキンケイギクの刈取りが工事単価は安いのだが必ず再生してしまうことの改善点として、毎週連続刈取りした場合に駆除効果は得られるのかを見たかったのです。結果的には②の刈取り法では9週間続けても駆除できず、初回の駆除株数と2週目以降の累積駆除株数(新規確認株を含む)の比が826%と再生を繰り返すことが分かりました。③の花だけを切り取る方法も念のため繰り返しましたが、蕾の再生は続きました。それに対して①の根ごと抜き取りは1回実施すれば、再生率18%とはほぼ駆除できることが再確認できました。

抜き取り法	刈取り法	花切り法
再生率 18%	826%	161%

(オオキンケイギク対策部会 部会長) 野中 賢輔

平成27年度の活動記録

● 山崎川駆除活動計画

設立2年目の駆除活動は、場所を山崎川の河川敷としました。その理由は川の延長が短く、市外からの流入もないため、オオキンケイギクの種子が市外から流入する恐れがないことと、地元住民に非常に親しまれている川であることです。またオオキンケイギク駆除活動がどれだけの市民を集められるのかも未知数だったため、比較的短い山崎川を選定しました。

日付	人数	40リットル袋
名建協 5月9日	140人	50袋
市民 5月16日	58人	20袋
スタッフ 6月中	延べ18人	23袋

● 5月9日名古屋建設業協会(略称:名建協)

活動の初日は5月9日に名建協にお願いしました。名建協は土木・造園・建築など地元建設業者170社の集まりで、定期的にゴミ拾いを行うボランティア組織を持っているのでそのグループに依頼したところ、かつてはオオキンケイギクを緑化工事に使用してきた反省も込めて、快く引き受けてくれました。場所は一番多く生えている左右田橋から鼎橋までを担当し、当日は140人もの関係者が河川敷の急斜面に生えたオオキンケイギクを根ごと抜き取って歩いてくれました。40リットル袋換算で50袋分駆除できました。ありがとうございました。



● 5月16日市民調査員

一般市民への呼びかけに応募していただいた市民調査員は 30 名、協議会関係者は 28 名の合計 58 名が 5 月 16 日に抜き取り活動をしました。地元のコミュニティセンターでオオキンケイギクの侵略性で見分け方と抜き取り方を事前学習してから現地へ向かいました。ただし、当日は大雨が降ったため予定していた河川敷から、近くの空き地へ活動場所を変更しました。それでも 20 袋分のオオキンケイギクを山崎川の近隣地から駆除することができました。また当日はテレビ局や地元新聞記者の取材もあり、市民啓発にも一役買うことができたと思います。



● 6月2日～30日部会スタッフ

その後 6 月いっぱいにはオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で平日の夕方に集合する形で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除しました。この地域では河川敷内の擁壁が数メートルから 10 メートルも切り立っており危険を伴うため、全員ヘルメット着用の上、はしごやロープや安全帯を使っての駆除活動です。5 回の活動で 23 袋のオオキンケイギクを抜き取り駆除できました。活動する姿が目立つため、地元住民に呼び止められて活動の意味を説明したり、学校帰りの小学生に激励されたりと、市民啓発にも役立てたと思います。



結果と今後について

2015 年度は 5 月 9 日から 6 月末まで述べ 214 人が参加し、山崎川ほぼ全域から 93 袋のオオキンケイギクを駆除したことになります。

それでも 9 月ごろには、抜いたはずの萩山橋あたりの河川敷で、オオキンケイギクが再生していました。このあたりでは埋土種子が多いのかもしれませんが。

実は昨年度も同じ場所で土木事務所の職員さん達が自主的にオオキンケイギクの抜き取り活動をしてくれたので、2 年連続の駆除活動をしたことになります。オオキンケイギクは 3 年連続で抜き取ると一定の駆除効果が出ると言われることがあるので、最低でもあと 1 年、来年度の 2016 年度も継続して山崎川全域の河川敷で駆除活動を続ける計画です。

名建協、市民募集、部会スタッフによる活動計画を作成中です。今後、市民参加による駆除会も行います。

